

## 令和7年度 保健体育科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・コロナ禍に見られた体力の低下からは回復傾向が続いている。小中連携で重点的に取り組んでいる全身持久力においても、インターバルトレーニングやサーキットトレーニングなどアプローチを変えることで意欲的に取り組んでいた。
- ・単元によってICT機器の活用ができ、生徒同士で学び合う時間も設けることができた。
- ・授業のねらいをボードで書き出し、学習カードの記入項目を「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の項目に分けたことで、具体的な記入が増えている。

#### (2) 課題

- ・生徒一人一人が課題を見つめ、スモールステップから達成感を得られるよう、今後も生徒同士で学び合う場を増やし、課題発見能力や課題解決能力を育む場を増やしていく。
- ・運動能力や運動意欲の二極化が見られる。上記で挙げた一人一人に合った課題を設定する他に運動会や球技大会に向け、集団で運動へ向かい努力する場を模索する。
- ・ICT機器の活用が運動能力を高め、課題解決に役立つので、運動量の確保とICT機器の活用を両立する使用方法を今後も模索し続ける。

### 2 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
体力差が大きく、運動習慣の不足が考えられる。達成感を得られる運動を多く取り入れ、基礎体力の向上、技能の習得につなげる。	助言し合う場面も見られ、保健分野においては発言も多い。一方で自信をもてない生徒もいる。成功体験を増やすことで改善を促す。	活発に運動を行える生徒と苦手意識の強い生徒に大きく分かれる。集団や個人、クラスによって偏りがあるため、種目によって声かけ、指導を要する。

#### (2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
技能の高い生徒もおり、二極化が見られる。運動部に所属する生徒が多い。体育分野や保健分野で動作や考えを言語にまとめるところに課題がある。	ICT機器を活用すると、気づきを促すことができたが、動作の改善につなげ、表現することは難しい。継続する。保健の授業では、発言が多い。	元気よく、意欲的に学ぶ生徒が多いが、運動が得意な生徒で楽しむことが多いので、ペアやチーム分けに配慮を要する。メリハリをつける必要もある。

#### (3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全体的に体力の基準は高くなり、特に全身持久力や投げる力に課題をもつ生徒が目立つ。運動習慣を確立し、技能を身に付けていく必要がある。	話合いやアドバイスを送るなど、課題解決に向けて思考し、表現することに苦手意識をもつ生徒が多い。できたことを認め、自尊感情を高めていく。	運動を好み、主体的に学習に取り組むことができる生徒が多い。授業ごとの課題やねらいを明確にすることでより主体的な取組につなげていく。